

担い手のライフサイクルに応じた支援

タイトル 6次産業化への取組み

J A名 たむら (福島県)

1 動機 (経緯)	6次化産業への取組みとして3年目を迎えた6次化実践塾は、農商工連携による地域資源を活用して、ビジネスプランの立案および商品開発を支援する目的で取組み、さらに、「売れる」商品を販売するために必要な知識を提供するセミナー及び実践的な研修を実施した。
2 概要	福島大学の教授を招き、全国でヒットしている加工品の商品研究を実施し、売れる商品の「理由」を研究し、また売れる商品パッケージを参考にパッケージやラベル作成のポイントを学んだ。さらに視察研修により6次化実践塾の方向性や受講者の商品作り、製造にかかる組織体制などを学んだ。 商品販売については、山際食彩工房の協力を得て、地元農産物を使った商品開発によりイベントや直売所での販売を行なった。
3 成果 (効果)	6次化実践塾にて地域資源を活用した6次化商品の研究や検討を重ね、農産物生産者が自らの加工によりイベントや直売所等での商品販売が出来た。 また、地域の加工業者への参加協力により、農産物の一次加工での消費拡大にも繋がった。
4 今後の 予定 (課題)	6次化実践塾を通して、農産物生産者が自らの手による加工から流通・販売までを手がけることにより、6次化産業の本来の趣旨である農業者の手取り向上に繋げることが重要と考えている。

